

対タジキスタン草の根・人間の安全保障無償資金協力 タジキスタン小児腎臓病センター医療機材整備計画

首都ドゥシャンベ市中心部に位置するタジキスタン小児腎臓病センターは1997年に設立されました。タジキスタンで唯一の0歳から14歳の小児を対象とした腎臓病専門医療機関です。タジキスタンでは年間約4,000人の小児が腎臓病に罹患しており、そのうち4分の3にあたる約3,000人が同センターで診察を受けています。また、地方在住の患者に対しても、地方病院を介し、電話での治療アドバイスなども行っています。

本計画実施以前は、同センターの医療機材は設立時より使用されているものが殆どで、経年劣化が著しいものもありました。超音波診断装置や細菌培養器など、先端小児腎臓病医療に必要である機材も導入されておらず、患者の症状を正確に診断することも困難でした。

日本政府は同センターで必要とされる医療機材9種を新規に整備する支援を行いました。本支援により、同センターはより精度の高い診断・治療を行うことが可能となりました。



整備された医療機材の使用状況についての説明を受ける堀江書記官、小松書記官。



同小児腎臓病センター入り口には日本の支援を示すODAプレートが掲げられています。



地元テレビ局撮影の中執り行われた供与式でスピーチを述べる堀江書記官とマリヤ・シェホヴァ院長。



日本の支援により整備された胃鏡。



日本の支援により整備された超音波診断装置。



新規に整備された血液ガス分析器の確認を行う様子。